

追悼のことは

赤間研一先生が御逝去され早や一年が過ぎた。昨年9月に新研究棟が完成したが、先生が御活躍すべき新しい研究室は一度も主を迎えることなく静まりかえっている。

赤間先生は1923年北海道帯広市にお生まれになり、1948年明治大学専門部商科本科を御卒業、1948年には札幌財務局理財部主計課に奉職された。1958年には公認会計士試験第3次試験に合格され、翌1959年より公認会計士として本格的に活躍されることとなった。その後、開設間もない本学経営学部にて助教授として招聘され、1976年10月に教授とられた。会計学分野では実務的方面にも精通した貴重なスタッフであられた。

先生の御研究は公認会計士としての実務的経験を基礎とした税務会計、特に税務分野がその中心的対象であった(日本会計研究学会正会員)。先生は日頃より、法人税法の規定はその中心となる計算規定が商法や企業会計の原則に基づくため、これらに対する正確な知見と具体的適用法を知らなければ税法の理解ができないことを強調されていた。このためこの方面では研究論文の他、多くの入門、実用書を著されている。さらに、経営分析の分野等でもいくつかの著書を出版され、会計学の基礎分野から応用分野まで極めて幅広く活躍されていたことが推察される。1981年に著された『基本税務会計論』は先生の長年の研究活動の中でも重要な著書であると思われるが、そこでは税務会計の体系化の新しい視点が展開されている。近年の消費税の導入等により今後税務会計の学問的重要性が高まる中で、赤間先生を失うことは同分野にとって大きな痛手であると思われる。

先生は学生の教育にも熱心であり、経営学部附属産業経営研究所が設置した会計指導室の責任者として税理士試験等の受験指導にもあたられている。実務的知識が豊富で分かりやすい講義のため学生の人気も高く、面倒みのよい教育者でもあった。67歳の御寿命は、先生には不本意であったと思う。公

2 (322)

認会計士としての経験と長年の研究の御成果とを集大成しようと構想中の時期に病魔に襲われたのである。本学にとっても大きな損失であった。

先生の御冥福を心から祈りつつ、ここに赤間先生の追悼号を刊行する次第である。

1990年1月

札幌大学経営学部長 宮 腰 昭 男